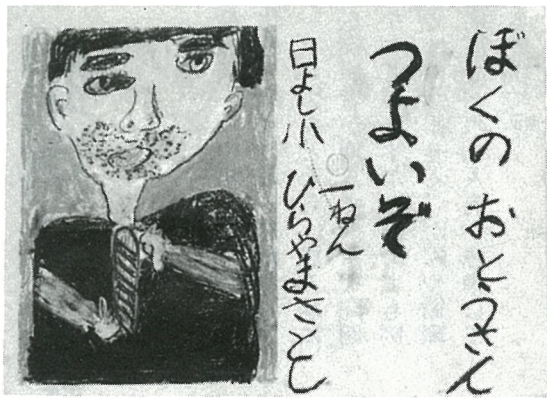


今回の児童・生徒のコーナーは、日吉
小学校の児童の作品を紹介します。
(敬称略)



1年
ひらやま さとし

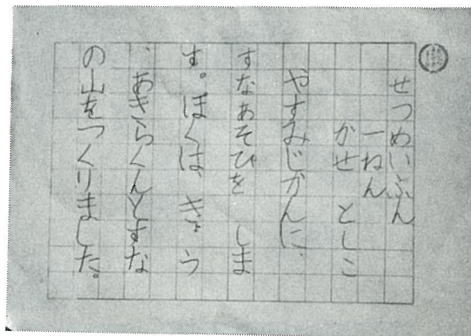
ぼくのおとうさん



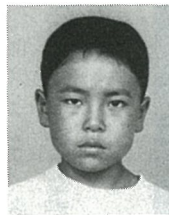
ぼくのおとうさん
つよいぞ
日吉小 一ねん
ひらやま さとし



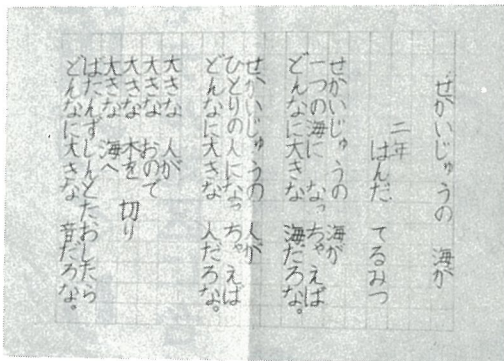
1年
かせ としこ



せつめいぶん
一ねん
かせ としこ
おすめいぶん
すなあそびをしま
す。ぼくはギョウ
あきらさんすな
の山をつくりました



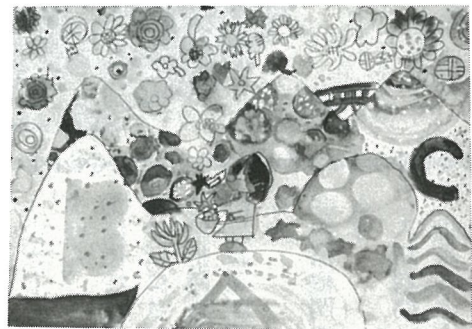
2年
はんだてるみつ



せかいじゅうの海が
はんだ てるみつ
せかいじゅうの海が
一つの海にちがえは
どんなに大きな海だろな
せかいじゅうの人が
ひとりの人にならちがえ
どんなに大きな人だろな
大きな人が
おのて
大きな海へ切り
はたすしとたわしたら
どんなに大きな手だろな



3年
おおき みか



4年
布施美恵子

「一つの花」を読んで

わたしは、この話を初めて読んだ時、
「一つだけちょうだい。」と言って、お
にぎりを全部食べてしまったゆみ子のこ
とを、(なんて、わがままな子だろう)
と思いました。
はじめはそう思っていたけれど、何回
か読むうちに、ゆみ子はおなかいっぱい
になるまで何かを食べたことがなくて、
いつもおなかをすかせていたことがわか
りました。それに、ゆみ子はまだ小さく

ひかり歌壇

土屋 好

色冴えし青紫蘇の香をふくませて
ふたりの昼餉素麴する

山崎平八郎

この日頃心の弾むこともなく
広き青田をひとり見て佇つ

伊藤 鏡子

帰り来し娘は「ぬるさか」としま湯の
我に言いつつそだをくべける

青柳 フミ

大輪の紅水蓮の相つぎて
咲ける二日の命華やぐ

岩沢 芳江

何時の日かここに眠ると思いつつ
荒れたる墓地を独り草取る

椎名賀代子

退院の快気に向う夫の試歩
夕べ十薬の花白き径

椎名 正三

手足奏えし義母に重ねて我が老いの
極みを想う悲しわが性

竹内 紀葉

潮騒のさそう今宵のまどろみに
泳げる魚の放縦を恋う